

生きながら死人となりてなり果てて

思いのままにするわざぞよき

至道無難

江戸初期の臨済僧、至道無難の言葉で、「至道無難禪師法語」に収められています。

「生きたまま死人になりきる。そうして自分の思いのままに生きる」という事は、じつは楽しいものである。」という意味です。

私は、自分の「エゴ」(自我)を中心にして生活しています。だから、何をやっても理屈っぽくなるし、いやらしさが出ます。人に親切にしても、愛情を表現していくのもいやらしくなる、「やってあげている」という意識が強すぎるからです。

「生きたまま死人になりきる」とは、その「エゴ」を壊してしまう事です。

今一度、自分の人生を振り返ってみれば
「人にしてもらったことのほうがこんなにも多かったのか!」と感じませんか?
自分が人にしてあげた事など大した事ない、それがわかると、
どんなに辛い状況でも、素直に感謝の言葉が出てきます。



月と兎

萬徳院釈迦寺

住職 竹田 明秀

昨年は異常気象による農作物の高騰や自然災害、田高や新卒の雇用率低下などの経済不安、尖閣諸島をはじめとする国際問題等、様々な不安要素がありました。今年は卯年。卯(兎)のように、ぴょんぴょんと飛び跳ねる躍進を期待したいのです。

さて、兎といえば、仏教説話「ササジヤータカ」や「今昔物語」で語られている「丘と兎」の話が有名です。

昔、インドに仲良くなつた狐と猿と兎がいました。ある日、三匹は、お腹を減らして倒れている老人を見つけ、助けるために狐は川で魚を取り、猿は木の実を取つてきました。兎は何もできないのでせめて自分の肉を食べてもらおうと火の中へ飛び込みました。老人は実は帝釈天でした。帝釈天は兎の捨て身の慈悲行に感心し、兎

を円に昇らせました。」といつあ

話をです。
ちなみに、兎が円で餅を突ぐのは、満円を豊円といつてから、「わかつき」→「わかつも」となりたとわれます。

私たちも、他人を悪いやる心を持つことにより、はじめて今の状況から戻ることが出来るのではないか。

今年は兎を覗習じ、思いやりの心を大切に過したいのです。

合掌

対立を生かす心



自分の考え方を固持する人がいます。

それは反対する考え方の人を全く聞かず、時にはまるで敵のように思つたり、にくんだりもします。しかし、これを続けることは、その人自身が偏つてしまつてしまな

ります。
自分の考え方を相手に充分に説くことは大切です。それと同時に相手の反対意見もたのしく聞く、心の余裕が必要です。

なぜならその反対の中にこそ、自分の気づかなかつたことを教えてもらつのヒントがあるからです。

たとえば、目の前に古い新聞紙がひらげられているとします。

そして、その上に字を書いてくれとたのまれても、立派なものは書けません。

たとえ、書いたとしても墨の色が

汚えないでしょ。

真白な紙、美しい紙、その上なら黒い墨の色が汚えます。書いた字が生きてくるものです。白黒は真反対の立場ですが、それを否定してはお互いを生かすことが出来ないのです。

自分の意見と反対の立場の意見と、この2つを見事に組み合わせて生き生きとした素晴らしいものになるはずです。

そのためには、まずは相手の話を聞く耳を持つことを意識しましょう。

聖徳太子は素晴らしい智者であり、日本仏教の礎を築かれた方ですが、一度に10人の話を聞くことができたと伝えられています。これはいかに聞く能力が優れていったかを物語っています。

巡礼記



願報告の般若心経を錫杖にあわせて
御唱えしました。

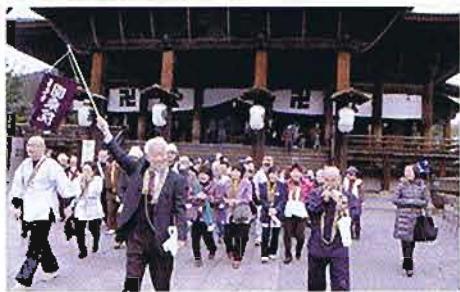
五年の歳月をかけて、巡礼して参
りました坂東三十三觀音の靈場も春
にすくてもわかることができました。



道中の仏様
の御加護に感
謝して御礼参
りの善光寺、

北向觀音に出
掛けました。

朝五時半の
稻毛別院集会
から二十一時



半解散まで大変な強行軍でした
が、ご参加された皆様の晴れやかな
笑顔が印象的でした。

曇り空で、長野県に入れば小雨の
あいこゝの空でしたが、錦秋に彩ら
れた山々を

抜け、たく
さんの参拝
者が溢れ
る、天下の
靈場善光寺
の力を感じ
ながら、皆
様とともに
大本堂で結

で先達の御
話になつ
た五年の間
に亡くなつ
た同行の仲



バス2号車

信州蕎麦の入った精進料理の御膳
を宿坊で頂き、戒壇巡りと御土産を
買いこみ北向き觀音に向かいまし
た。はじめが感激でした。

た。

別所温泉近くの北向き觀音は、ひ
なびた霧園氣の山寺で小雨の中にた
たずむ御堂の装いが心を癒してくれ
るようでした。

心地よい疲労感の中、帰りのバス

間の方たち
の御姿を思
い帰路に就
みました。

これより

の同じ志し
をもつ仲間との繋がりが幾久しくつ
つき、共にほとけ様の御加護を願わ
ずにはいられません。

ました。

つい口に出てしまつ
人生の寒暑（いろいろな苦し
み）が来た時、どう対処すべ
きだろう…
人生の苦は反抗しても避け
られないものがある。
「老い」、「愛する人との別離」
：避けられないものならば
逃げることなく、それとひと
つになってゆく事が大事。
「水は法縁の器に従う」が
如く、水は一切反抗せず無心
であり柔軟で素直に周囲の条
件に従つてゆく。しかも本性
を失わず万物を生かしている。
自分も水の心になれば少し
は心の「ゆとり」がもてるか
もしれない。

ました。

読者の広場 Q&A それが知りたい仏事の色々

◎仏事その五『お位牌』

本誌平成22年1月号に「お仏壇は、いわば極楽浄土を模したものであり、お寺（釈迦寺）の二チヨアなのです」と記しました。

お仏壇でのお勤めは、お釈迦さまなり、阿弥陀さまなり、お祀りなされているご本尊さまに対しても行われます。それがご先祖むべまほい、ご本尊さまのお淨土で仏道のご修行をなさっておられます。お仏壇はご本尊さまご先祖さまの住む、お淨土の世界を表しているのです。

今回お位牌についてお話を

お位牌は、儒教で祖先祭の時に用いた官位や氏名を記す神主（じんしゅ）に、神道での靈代（たまし）が習合したものとされています。お位牌を用いない宗派もありますが、それは礼拝の対象とは



合掌

新しい意味だそうです。お位牌の中に、「亡くなられたご先祖さまの靈（みたま）」が宿っているのだとは考えがたいかも知れませんが、お位牌・お戒名を通して故人さまを偲び、心を通わせることはできるのです。

新しく作られたお位牌は開眼いたします。開眼とは御魂入れとも申しますが、現代的感覚でいえば、お淨土とのネットワークを結ぶということです。お位牌を通して、ご先祖さまの追善普提を願つてください。

本年も貴家さまの繁榮、ご多幸をお祈りいたしましたことに、皆さま方のご信仰のお心がより一層深まりを増しておきたいと祈念いたします。

○次回予告 次は秩父です。今年一年で各回とも日帰り全4回で、秩父三十四觀音札所巡礼の旅をあこなう予定です。皆様ふるつてご参加をお願い致します。

お問い合わせは、
萬德院釈迦寺 寺務所迄
047(457)5400

札所めぐり



日帰りバスの旅

柴又帝釈天・深川不動尊
平成23年3月16日(水)
9,800円

締切 平成23年3月7日(月)必着
詳しいお問い合わせは、萬德院釈迦寺
寺務所まで

047(457)5400

※別紙にてお申込用紙を同封しています。御覧下さいませ。

坐禅会・写経会のご案内

○坐禅会（参加費 無料）

日々の雜踏から離れて、

●イスを使った「らいらく坐禅」もあります。
●1月18日(火)午前8時より
●2月15日(火)午前8時より
●3月15日(火)午前8時より

○写経会（納経代 お一人様千円）

★写経のコースもあります。
★お気軽にご参加ください。

○月例法要（供養お布施五千円）

故人様、ご先祖様追善の法要と

月例行事のご案内

○月例法要（供養お布施五千円）

御導師様の法話がございます。

故人様、ご先祖様追善の法要と

御導師様の法話がございます。

平成23年3月21日(月)春分の日
釈迦寺大本堂にて
午前9時より

稻毛●1月9日(日)午後2時より大本堂
小室●1月16日(日)午後2時より大本堂
稻毛●2月13日(日)午後2時より大本堂
小室●2月20日(日)午後2時より大本堂